

新しい社会的リスクと日本型ソーシャル・ガバナンスの行方
ー フォーラムA、ネットワークBを事例に ー

濱西 栄司

(京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会 特別研究員 DC1)

樋口 拓朗

2010年2月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科
Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

アブストラクト

本稿では、脱産業社会において進行する 4 つのプロセス（①女性の労働市場参加、②高齢化、③労働市場の変化、④民営化によるリスク上昇）にともなう「新しい社会的リスク」の問題に、政策的論的・社会運動論的にアプローチし、リスクと受苦が重層化する日本におけるソーシャル・ガバナンスの行方——親密圏と公共圏の再編成の行方——について、考察をおこなった。前半では、福祉レジームと社会運動の相互作用に関する一般的なモデルの構築と、それを日本型福祉レジームに適用する作業をおこない、その上で、具体的に大規模ネットワークであるフォーラム A とネットワーク B、20 団体以上の聞き取り調査を通して、その連携可能性と緊張関係とを描き出した。

2008 年度次世代研究「東南北アジア（韓国・香港・台湾・北京・マレーシア）の福祉レジームと社会紛争 ―「質」的相互作用に関する一般的説明モデル構築、及び紛争アクターへの聞き取り/現地調査による東南北アジア的特徴の導出 ―」（研究代表：濱西栄司）による成果である。

【メンバー】（ ）内は 2008 年度プロジェクト時点

濱西栄司（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程／日本学術振興会 特別研究員 DC1）

樋口拓朗（名古屋大学大学院環境学研究科 大学院研究生）